

ヘルスマーター

胃食道逆流症と しよくどうれっこう 食道裂孔ヘルニア

「逆流するので薬がほしい」と、症状というより現象を訴えて受診する人が増えています。

以前から病気に対する知識普及活動がテレビ等を通して行われているにも関わらず患者数は増え続けています。食生活の欧米化や高脂肪食、肥満の増加が影響しているとされています。

若い患者さんも増加していますが、多くは生活習慣が原因のため、まずはそれらについての問診や生活指導を行います。そして、他の病気がないことを検査で確認した上で内服薬の処方を行います。最近では手術も増えています。

胃食道逆流症は、食道裂孔ヘルニアも主な原因の一つです。食道裂孔ヘルニアは、胃が横隔膜にある食道の通り道から上側へ飛び出してしまう状態です。加齢に伴う変化であることが多く、高齢者の方や前かがみの姿勢になりがちな女性、内臓脂肪の多い男性に起こりやすいとされています。胃が心臓の裏側に位置するので、食事をすると胃が膨らみ心臓を圧迫して苦しくなったり、胃が肺を圧迫して容積を縮めるため苦しくなって長く歩けなくなったりすることもあります。

治療は腹腔鏡ふくくうきょうを用いた手術で、全身麻酔下に胃をお腹の方へ戻して固定します。入院は術後1週間で済み、お腹に小さな傷が5つ残りますが、術後の違和感は3カ月ほどで徐々に解消します。今では手術経験が豊富なため、再発や手術後のトラブルは少ないです。